



外国出張報告書

平成 25 年 1 月 13 日

1. 出張国名 ブラジル
2. 出張月 平成 25 年 10 月～12 月
3. 出張目的 抵抗性遺伝子のさび病菌に対する効果とさび病菌個体群内変異の解析等
4. 成果の概要

2012 / 13 年の大豆作期中に、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイの大豆圃場よりダイズさび病菌を採集し、病原性を評価したところ、さび病菌サンプル間で病原性変異が検出された。ブラジルでは、以前に分離したさび病菌及び単病斑分離菌株の病原性を評価し、さび病菌個体群間、または同一個体群内での比較を行った。さび病主働抵抗性遺伝子 (*Rpp* 遺伝子) のさび病菌個体群に対する効果を調査するために、*Rpp2* を保有する判別品種 3 から分離した菌の病原性を検定し、オリジナルの個体群サンプル、及び感受性品種 BRS 154 上で繰り返し増殖したさび病菌個体群サンプルの病原性との比較を行った。病害抵抗性誘導剤であるオリゼメート処理した BRS 154 に、さび病菌を接種したところ、接種 2 週間後には、オリゼメート処理区及び対照区の植物が罹病した。オリゼメート処理区及び対照区における夏孢子堆数及び孢子形成度合を比較したところ、大きな差は認められなかった。11 月 6 日～8 日に、ブラジル、パラナ州のフォスドイグアスにて、JIRCAS Workshop “Evaluation and utilization of the resistance to soybean rust” 並びに 2013 年度畑作安定供給プロジェクトダイズさび病検討会を開催した。

外国出張報告書